

創立
30周年
企画

関西民放クラブだより

「創立30周年記念総会・懇親会」

北村一明(ABC)

関西民放クラブは1988年7月、今はないホテルプラザを舞台に、須藤規夫氏(ABC)を会長として会員231名でスタートし、今年創立30周年を迎えました。

発足時の定年は55歳だと思われまます。だとすると会員の平均年齢は現在の79歳より随分若かったと思われまます。

しかし現在の関西民放クラブは、後期高齢者団体とは言え、22の同好会と識者による「定例懇話会」、メディアの現状を知る「メディアウォッチング」など活発に活動しています。

4月13日に行われた創立30周年の総会・懇親会は、大阪城近くの「太閤園」に在阪民放7社の会長、社長、日本民放クラブから村上光一会長が来賓として出席。会員は近年最多の143名が参加し盛大に行われました

西川きよしさんの記念講演は、



30周年を祝して乾杯

西川さんの芸歴と在阪民放の歴史がびつたりと重なり、会場には顔なじみも多く和やかなトークショーとなりました。

会員が現役時代に関わった番組の裏話や相手の故・横山やすしさんが収録をすっぽかしてポートルースに出場し、優勝したためスポーツ紙の一面を飾り、すべてが明るみに出たことなど面白おかしく語り会場を笑わせました。

懇親会は「コールまかーな」のコーラスで幕が開き、在阪各社への感謝状贈呈、福井澄郎関西テレ

ビ社長の来賓あいさつ、村上光一日本民放クラブ会長の乾杯の音頭で賑やかに開会しました。
太閤園の料理に舌鼓をうち、旧交を温める和やかな時間の中、クラブ歌「いきいき夢を」の英語版が披露されました。



西川きよしさんの記念講演

さて、懇親会の目玉は初登場の「とるぞう」を使ったゲーム。あらかじめ撮影しておいた参加者全員の顔写真が「スタート!」の合図で舞台上のスクリーンに次々と現れ、「ストップ!」の声で、止まった時の顔の人に賞品が当たるというもの、賞品は在阪局のみならず各地の会員出身局からも寄贈いただき、空くじなしの豪華なゲームとなり会場は大いに盛り上がりました。



英訳のクラブソングを歌う



新緑の庭園で

4時間に及んだ懇親会の中締めは、竹村理事による名物手締めで無事お開きとなりました。
同好会の作品飾りつけ、懐かしの放送グッズの展示などは、前夜から理事が総がかりで準備しました。後期高齢者の集まりとはいえ「心」はまだまだ若い関西民放クラブです。各同好会は引き続き創立30周年の記念活動を企画しています。ご興味のある方は関西民放クラブのホームページをご覧ください。